

日経BPムック 「変革する大学シリーズ」より 名古屋学院大学 2006-2007年版が出版!!

日経BP企画が発行する「変革する大学シリーズ」から、名古屋学院大学 2006-2007年版が10月27日に発行されます。

「変革する大学シリーズ」は、大学のトップインタビューをはじめ、対談、レポート、データなどを駆使して、その大学の考え方や特徴、個性など“頼れる大学の実力度”をわかりやすくビジュアル豊富に描き出すものとして定評があります。今回、我が母校はこのシリーズにラインナップされたことで、全国的に注目される大学の一翼に入ったと言えるでしょう。



ここでは、松原武久 名古屋市長と伊藤信義 名古屋学院大学理事長の誌面对談の中から抜粋し、掲載いたします。対談の全文は、この本を購入の上、ゆっくりとご精読ください。

※お買い求めは名古屋市内の大型書店にて。

日経BPムック「変革する大学シリーズ」
名古屋学院大学 2006-2007年版
2006年10月27日発行 定価 1,200円

▶主なコンテンツ

- Part1 オリジナリティあふれる教育システム
- Part2 加速する学部改革
- Part3 実績ある地域貢献・社会貢献
- Part4 充実のキャリア支援プログラム

HOT NEWS

—2007年4月、名古屋学院大学は、これまでの瀬戸市から名古屋市熱田区にキャンパスが移転します。現在建設中の名古屋キャンパスについて、まづうかがいます。

伊藤理事長（以下伊藤） 施設は2カ所にあるり、どちらも熱田区です。1つは地下鉄名港線日比野駅のすぐ上にある日比野学舎、もう1

つが堀川を挟んで熱田神宮公園の向かいにある白鳥学舎です。白鳥学舎はちょうど、名古屋国際会議場と白鳥庭園の間に位置します。都心でありながら自然環境に恵まれた絶好の場所だと思えます。

松原市長（以下松原） 白鳥学舎の場所は、もと堀川に面した貯木場だったところです。

そこを名古屋市がデザイン博覧会の会場に使い、その跡地に国際会議場と白鳥公園をつくりました。名古屋学院大学を誘致した場所は、その跡地の空いていた土地にあたります。

伊藤 瀬戸キャンパスの4つの学部のうち、経済学部、商学部、外国語学部の3つが名古屋キャンパスへ移ります。学生の数は約4千人、それ

に加えて大学院生、教職員、合わせて約3百人も移ることになります。

松原 大移動ですね。入試や入学式はどうなりますか。

伊藤 入試は日比野、白鳥両学舎で行うことができますが、入学式は国際会議場を使用します。新入生は約1千人ですが、入学式となると、